

令和6年度 第2回 部活動のあり方研究及び地域移行に関する有識者会議（議事概要）

令和7年3月12日（水） 午後3時30分～5時

大阪市役所 5階 大応接室

1. 開会

杉本部長より挨拶の後、配付資料を確認。【資料1】より出席者を紹介し、【資料2】に基づいて間野委員を座長に選出する。

出席者

対面参加：間野委員 松永委員 土屋委員 古川委員 西田委員 森末委員 巽委員
辰巳校長

リモート参加：相原委員 塩見校長 西田校長

オブザーバー

対面参加：

リモート参加：大谷課長（東淀川区） 清原課長（都島区）
玉置課長（西区） 江原課長（東住吉区）

事務局

対面参加：杉本部長 糸山首席

リモート参加：岩槻課長（大阪市経済戦略局）

2. 議事

（1）【資料3】議題1、本市の歩み及び議題2、今年度の取り組みについて、事務局が説明。

（巽委員）

- ・『みんなの水泳教室』は令和3年から始めた。
- ・私たちが『みんなの水泳教室』を開催するにあたり、単なるスポーツ活動にとどまらず、多様な背景を持つ子どもたちが交わることで、水泳の技術向上よりも共生社会の実現に繋がる、重要な役割になれたらいいと思っている。
- ・実際今回も、重度の障害の方2名参加。初年度からずっと参加していただいている。目で見て分からないが、少し発達に課題があるお子さんや民間スイミングになかなか入会できないお子さんが『みんなの水泳教室』なら参加できるという、感想もいただいている。
- ・報告の通り、不登校の生徒など集団のところに入っていくのが困難な生徒さんも多いが、ピンポイントで実施すると、通いやすいとか、参加しやすいというメリットがある。
- ・今後は発達に課題のある子どもや障がいの有無に関係なく、また不登校の生徒さんも、みんなが気軽に参加できるような事業を継続していけたらいいと思う。
- ・今までは桜宮高校の室内プールだったが、今回コナミスポーツクラブで4コース使用して実施。残り半分は一般の方用に営業し泳いでいる状態だったが、特に大きな問題もなかった。コナミさんの

施設はやっぱりすごく立派だった。バリアフリーでエレベーターなどもあり、非常に使いやすかった。ただ、プール利用料など予算の関係でいろいろ工面していただいた。

- ・継続というところでは、事務局の方も課題も抱えられる。

(森末委員)

- ・いろんな事できるのはいいこと。放課後に何かやりたいときに、文化的なことをしてみることで、「これは面白いとか、こんな才能があったんだな」とわかるので、とてもいいこと。
- ・今回のモデル事業では費用は取っていないが、モデル事業を今後も実施していく中で、1人当たりどのぐらいの費用が必要か試算はされていますか。

(糸山首席)

- ・1人当たりの費用について、事業費を人数割りで考えると、参加者数が少ないので、金額的には多額な金額になる。
- ・参加していただいた保護者の方で、受益者負担はどれぐらいならいいかと聞くと、月額で2000円、3000円程度という金額が現状。

(森末委員)

- ・保護者の方が負担できる金額は、2000円や3000円ぐらいという希望ですね。
- ・実際、全クールでやるとすると、お金をどうするかが一番問題になる。その時にどのぐらいでできるのか。
- ・もちろん、指導員の方の数、手をあげる事業者の数がどうなるかわからない。
- ・仮にすべての大阪市の部活動を外に出すとすると、どのぐらい費用がかかるのか、試算することは政策を決定するうえで非常に大事なこと。
- ・先行事例として神戸市などが、全部外に出すとの話がある。そのあたりどう考えているのか。
- ・特に費用面。もちろん事業者が手をあげるかという問題もあるが、その辺りの調査はまだされていないでしょうか。神戸でも、まだはっきり決まっていなくてもいいかもしれませんが、そのあたりはいかがでしょう。
- ・大阪市として、現在費用がわからないとすれば、神戸市などが外に出すときにどのぐらいの費用感で実際進めようとされているのか。もし、調査でわかっていれば教えてください。

(糸山首席)

- ・神戸市では、民間にすべて事業としてはお任せしている。その事業費用については民間でやりなさいというような形になっている。
- ・その代わり、学校施設を貸し出すので、できるだけ廉価な金額を、保護者負担という形で取ると聞いている。月3000円程度と聞いている。

(森末委員)

- ・今の調査でいうと、そのぐらいで収まるということですね。もっとかかりそうな気がした。

(間野座長)

- ・いやもっとかかると思う。保護者が支払ってもいいと思えるのが、3000 円までだということなので、その差額をどうするか。実際 8000 円ぐらいかかる。その差額 5000 円を誰がどう負担するのか。

(森末委員)

- ・実際かかる費用が 8000 円なのか 1~2 万円なのかをお聞きしたい。
- ・保護者が支払ってもいい、我慢できるという話を聞いているわけではなく、いくらぐらいかかるかという点について調査をされていますか。

(糸山首席)

- ・神戸市に関して申しあげるとそこについては、今現在手元に資料はない。

(間野座長)

- ・完全に市場化したとしたら、普通の民間のフィットネスクラブやテニススクールでの月謝程度はかかると思う。
- ・そこから学校施設を使うことで少し割安になるかもしれないぐらいではないか。
- ・かなり大きな負担になる可能性がある。

(森末委員)

- ・そこがまず、一番大事なところ。そこが本当はどのぐらいかかるのか。それに対して、大阪市としてどれだけお金を公金として出せるのか。
- ・差額を 3000 円 2000 円に抑える。では、それでいけるのか、ここの問題が一番大事なところ。
- ・やはり、まずお金の問題。お金が高すぎるのであれば回数を減らすということも考えていかざるをえない。もちろん、保護者・子どもさんにすると、自由に行きたい放題でいけばいいが、やはり、そこまで出せるのかという議論がある。
- ・今実施しているモデル事業は、すごくいいことで、検証したら、良かったというのはわかる。
- ・しかし、政策としてやるときは、やはりお金の問題が一番大事と思うので、その辺が今後の調査プラス検討課題と思う。

(土屋委員)

- ・古川先生とタッグを組んで、約 2 時間の枠で部活動指導員を実際にやっている大学生と一緒に勉強させていただいている。本当の資質能力はいろんなところから捉えられると思うので、彼らのニーズに合った、困りごとに合うようなこと、こちらが伝えたいミニマムエッセンスとうまく合うようにということで古川先生からもいろいろご指導いただきながら 2 人でタッグを組んでやっている。
- ・最近の傾向として本当にいろんな学校から、応募者が増えてきて非常に成功していると思う。

- ・大阪市が大学生を活用しているというのは、全国的に好事例として紹介してもいいと思う。
- ・本市の方向性のうち、学校、部活動の地域連携と休日または地域クラブへの移行、この2本柱のうち、部活動指導員の配置については、比較的うまくいっている。
- ・資質の担保ということで2時間の勤務時間扱いの研修では、非常に意欲的な学びになっているので、比較的うまくいっている実感。
- ・一方、間野先生が以前から部活動改革だけではなく子どもたちの放課後改革だとおっしゃっていて、そういう点では、休日の新たな地域クラブへの移行のところがいかにうまくするか。
- ・参加した人はみんなよかったと言っているのに参加した人がとても少ない。このジレンマをどうするか。
- ・例えば大学だと、教員から生徒へこういうのがあるからやったらどうと言っただけで勧めてくれる。
- ・一方で、中学校が子どもたちに、こういう新たな取り組みがあるから行ったらどうと、どれくらい学校の先生たちが勧めてくれているのか。
- ・それとも、「僕が指導者だから僕の部活中心にやりなさい」って指導しているのか、この辺りも私達の方からいろいろお願いをしてはどうか。食わず嫌いではだめ。ポッチャはやったら絶対楽しいと思うけれど、参加人数が少ない。ポッチャだと言われても多分、やったことない人はわからないと思う。やれば楽しい活動だと思うので、いかに周知していくかということ。
- ・部活指導員拡充について、非常に大阪市はうまくいっているという実感。それをどう、この地域クラブの方に広げていくかって言うのが、また腕の見せどころかなと感じた。

(古川委員)

- ・先日、部活動指導員学生研修会にロボット部の部活動指導員の方も来ていて、これまでに初めてでした。ロボットでPBL的な形で部活動進められているので、何かそういった点でも非常に興味深い部活だと思いながら、研修は進めていました。
- ・そういう意味で、今考えたことですが、大学部活動では中学校・高校ではないような部活動も非常にたくさんある。例えばアルティメット、ラクロスなど。
- ・大学生から始めるような部活もある。まだ部活動の一覧には出てこないようなマイナースポーツに取り組んでいる学生（セパタクロウなど）がいます。
- ・そういった学生たちが、いろんな種目もあるよと、部活動指導員として参加していくのも可能性としてあり得るのかなと思う。
- ・もう1点、こちらも意見ですが、部活動指導員・指導者の確保の点においては、学生指導員もですが、大阪市は非常に人口が多い。でも地域差がある。地域に目を向けると、この地域ではこんな活動しているとか、こういう民間の事業者があるという結構意外な発見が街を歩いていてある。
- ・そういったスポーツ文化活動の団体も参画できるような仕組み、参画してもらえるようなプラットフォームといったあり方も考えていくことで、指導者の確保がしやすくなると。
- ・やはり窓口というか、その仕組みが非常に狭い。いろんな方たちが参入できるような仕組みのあり方っていうのを考えてもいいのかなというふうに思った次第です。

(松永委員)

- ・京都市では、今の小学3年生が中学1年になるときに、部活動を地域に展開すると公表。
- ・急な廃止は無理なので、古川先生のお話にあった京都版地域クラブというものを立ち上げている。
- ・学校区、或いは競技種目によって、京都市内の中で、もともと力を入れている種目がベースとなっている中学校。地域にある民間スポーツチーム。いい指導者の存在。地域によって特徴が違うので、基本的には、2、3校のエリアを1つの核として、種目を決めた形で展開していく。
- ・いろんな形があっていいという考え方。仮称ですが、京都版地域クラブを展開していく。
- ・すでにある民間スポーツ施設のスタッフが核になる場合、競技団体の指導者が核になる場合がある。
- ・京都には、体育振興会というものがある。総合型地域スポーツクラブが核になる場合もありますし、地域の保護者の方が手を挙げてやりますという場合もあるかもしれない。
- ・京都版地域クラブを核にやっていると、場合によっては、例えば棒高跳びのような、陸上の施設しかできないというようなものは完全に拠点型で、遠方からでもやりたい人がやる形。
- ・1つの学校だけではなく、2・3校のエリアをおおよそのめどにしながら、種目によっては京都で1つだけの完全拠点型もあるかもしれない。
- ・エリアの中で、その特徴のあるスポーツ種目、文化芸術活動を考えていく。少し時間はかかるかもしれないが、現実的に人と組織が見える形で進めていくイメージ。
- ・一方で、放課後活動といって、学校の中でできる活動は残す。
- ・これは、京都市にお願いして実行したのですが、実際に中学校にお邪魔し中学生の子どもたちにお話や意見を聞きました。
- ・今は方針のパブリックコメントもしているが、大人版と子ども版の概要を作って、子どもたちにもパブリックコメントで今意見を求めている。
- ・目から鱗だったが、子ども達から聞かないとわからないことが結構あった。
- ・例えば、放送委員会。京都は放送部の生徒が部活動として役割を担っている。学校の中で必要とされている部活、学校行事に必要とか学校運営に必要とかという部活に関しては別で考えていけないといけない。
- ・表現として放課後活動という形で、今仮称で呼んでいるけれど、吹奏楽も学校の式典では必ず演奏しますし、学校の中では欠かせないものになっているので、そのまま京都版地域クラブにしてしまうと、困るという学校も出てきた。そこを踏まえ、現状の把握をさせていただいている。
- ・京都版地域クラブにできる種目や活動と、ある程度学校の中の放課後活動として残さないといけない活動ともう1つ、いきなり京都版地域クラブにも行けないものがある。
- ・ボッチャのような本当に気軽に、本当はやってみたいけれど部活にもないし、地域もどこに行ったらいいかわからないみたいなものは、まず学校の中で子どもたちが自主的にやってみたいものを募って、ある程度学校でできる場所が確保できたり、費用がかからなかったりするものは学校の中で、体験をし、その間にコーディネートする人が地域にできるところを探したり集めたりして、地域の活動に落とし込んでいく。
- ・そういう京都版地域クラブと放課後活動という2つの柱。またその中にも、様々なエリアごとに、或いは活動ごとに特徴が出てくるというような形を描いている。
- ・まだ方針を出している段階なので課題山積ですが、一部そのようにスタートできる地域や活動はあるところで、進めているのが京都市の特徴です。

- ・今のお話で、子どもたちが一番不安に感じているのが、学校の先生に教えてもらうのと、地域の専門とはいえ、知らない大人の方に指導してもらうということ。何か怖いと。不安という表現をかなり漏らしていました。
- ・大阪市が取り組んでおられる研修というものは京都はやっていない。京都市の今の部活動指導員は、顧問と繋がりのある卒業生という信頼関係のもとに一応コーディネートの方が面接はしている。
- ・研修を何時間受けないといけないというのがないので、やはり保護者の方は、質をかなり不安視されている。
- ・日本スポーツ協会の資格をできるだけ取得することや大阪市のような研修必ず受けるなど、そういったところについてはこれからの課題。
- ・まだ絵にかいた餅状態のところもあるので、実際難しい面もある。京都市の特徴としては、そのような状況です。

(2)【資料3】来年度(今後)に向けて について、事務局が説明。

(西田委員)

- ・スポーツ協会として、指導者養成というものは現実的にはあまりない状態。
- ・種目によっては、武道系のなぎなたは実際に学校に入り、部活動を見ている。
- ・指定管理者ですが、クラブのお手伝いがあるのか、または、クラブには入れないけれども、我々の施設の方に、教室として、スキルアップのために入れないかということで、学校単位に出前授業という形で、テニスや水泳の授業に行かせていただいたりしている。
- ・我々が持っているスキルを活用させていただき、少しながらも種まきができればという形になっている。
- ・スポーツ協会自身としての活動ではないが、そういった形でされているところのお話は聞いている。

(辰巳校長)

- ・実施種目が今年度増えているので、非常に明るい展望が見えた。文化活動については、それぞれかなり特徴的で、道具であったりとか、指導者の数であったりとか、問題がたくさんあってなかなか地域では難しいというのが、今まで感じていたこと。
- ・書道やギターがその設備を利用して、何かしらたくさん工夫されているので楽しみではある。ただ吹奏楽など規模の大きいもの、道具の種類が非常にたくさん必要なものは、なかなか地域では、形的には見えにくい。
- ・各学校の、文化部にしても、運動部もそうだと思うが、勝ち上がって関西大会とか全国大会とかを目指しているのが平日の学校でのクラブの活動の部分。そこと、休日、地域移行の活動とのマッチングをどのようにしていくかなどの課題はあるのかなと感じている。
- ・ただ、やはり子どもたちが自分のやりたいことができる環境、活動・発表の場をたくさん提供してあげたい。目の前の子どもの利益について学校も考えているところなので、その辺りは期待したい。

(松永委員)

- ・辰巳先生がおっしゃった通りで、京都が休日と平日を切り分けないという決断をしたのは、吹奏楽部関係者の強いご希望。休日と平日を切り分けることができないということ。楽器の問題もある。学校の楽器をその地域にというのが現実的ではない。平日休日分けなかったのは、どちらかというところ、芸術文化関係者の強いご意向というのはお話いただいた通り。

(西田校長)

- ・2年前から地域クラブが中体連の試合に参加できるという制度がある。その中で、クラブチームが大会に参加できるもののなかなか参加しづらい現状があったので、日本中体連が少し制度を緩めている。それに基づいて大阪府が、合同部活動の参加のルールも緩和し、令和6年度は、8種目で142チームの合同部活動のチームが中体連の大会に参加しているという現状。また新たに拠点校方式による部活動チームも10種目、39チームの参加が見られた。
- ・複数校合同チームにつきましては、学校に部活動があり、顧問の指導のもと活動しているが参加するにあたって人数が足りないので、他校と合同でチームを組んで参加する制度。
- ・もう1点、拠点校チームにつきましては、自校に部活動がないが、例えば隣の学校に活動したい部活動があり、そちらに参加させてもらうのが拠点校チームになります。これがすごくたくさん増えてきているという状況。
- ・昨年度のクラブチームの大阪府への登録ですが、63団体からの登録がある。
- ・種目としては13種目。これは府の中体連の事務局で参加のルール、規定をクリアしたところを登録承認しまして、参加いただいているという状況。
- ・実際にこの後、クラブチームが参加してくるところで懸念されることですが、基本的に中体連というのは、イベント屋。子どもたちが参加する大会を運営する立場になりますので、運営する人材が少なくなっていくと試合自体ができなくなってしまうということもある。
- ・例えば中体連の大会を維持していくためには、クラブチームの方々、指導者にも、運営に参加いただいて、維持していくということが必要になってきます。そのあたりを、ご理解いただいたところに、大会に参加していただいている状況がある。
- ・クラブチームが増えていくと、例えば中体連自体が機能しなくなる。部活動数が減っていき中体連が機能しないというふうな状況になったときに、果たして中体連の運営が維持できるのか課題。
- ・ゆくゆくは協会での運営も視野に入れながらやっていかなければならないとイメージとしてはいる。

(塩見校長)

- ・西区なのでモデル事業の対象区の校長でもある。次年度に向けて、うちの生徒も平日休日切り分け型で今年やっている。うちの生徒は、普段できないスポーツのところに参加し非常に高い満足度を得て帰ってきている。休日平日切り分け型で、できるだけ多くの中学生に体験させてみると、また違った、感想や感覚、中学生の考え方というのが出てくるのかなということで、基本的には今の形を令和7年度拡大するっていう方向を非常に楽しみにしている。

(相原委員)

- ・これからも進めていただくのがいいかと思う。だんだんと運営の安定期にも入ってきて、拡充、展

開していくと思う。

- ・そんな中で1つ、広報のところ。満足度78%もあるので、もっと広げていきたい。この辺が強化されるとさらに、アンケート調査含めフィードバックもあって、今後さらにこれがPDCAを入れ、よりよく回っていくのではないかと率直思い聞いていた。

(岩月課長)

- ・大阪市のスポーツ部として所管している団体の中で、今回のクラブの受け皿になる可能性のあるところでいくと、総合型地域スポーツクラブがある。
- ・先ほど、資料の37ページ神戸市との比較の中で、神戸市の総合型地域スポーツクラブが160クラブあるが、大阪市は21クラブという形。生徒数でいうと、逆に大阪市は神戸市よりも1.5倍というようなところ。
- ・総合型地域スポーツクラブが全体の受け皿になりきれぬのかというと、ほとんど受け皿とはなれない。
- ・一方、総合型地域スポーツクラブ自体は、いろいろな種目で活動され、土日も活動されているクラブもあり、受け皿となっていける可能性は十分ある。
- ・全体的な数をどうするのかというところでは我々の所管とは違うが、大阪市でなぜこの、総合型地域スポーツクラブが数少ないかというところの話にも関わってくる。
- ・各地域で、学校施設開放事業がずっと歴史長くされている。その中で、地域ですでに活動されているスポーツ団体というものが実際たくさんある。
- ・我々、総合型地域スポーツクラブを立ち上げるときに、そういったクラブにお声がけをし、総合型地域スポーツクラブというものがあって、登録制でというようなところで、立ち上げにご協力をさせていただいた経緯がある。
- ・その中で20クラブ強ぐらいが協力してくださり、総合型となっている。現在21クラブで、全部の行政区にはなく、15行政区にしかない。その時に、増えなかったのは、学校施設開放事業で学校の施設を使いながら、スポーツ活動ができていたので、何ら不便ではないと。要は総合型にするメリットがないというところからなかなか増えなかったという経緯。
- ・今クラブがどれぐらいの数があるのかというと実は我々も把握できていない。学校施設開放事業の利用調整は、各区役所、地域でいろいろな調整がされている。
- ・数でいくと相当数のスポーツクラブが、地域で活動されているのではないのか。
- ・総合型でいくと、なかなか数的には少ないというようなところはある。今後、受け皿となりうる地域で活動されている団体というのは、掘り起こしといいますか、数的には可能性はたくさんあると感じている。

(間野座長)

- ・総合型地域スポーツクラブ政策は1995年から始まっている。25年前の2000年に、兵庫県は全小中学校に作るって特別なことをやった。大阪が少ないのではなく、兵庫が多い。
- ・それが結果として受け皿になってきた。別に大阪市が進んでいないわけではなく、たまたま隣の兵庫県が多かったということ。だから政令指定都市である神戸市もこれだけの数がある。

- ・大阪市は標準です。

(糸山首席)

- ・もともと神戸市は、部活動を 17 時までにはしていたことも含め、総合型地域スポーツクラブが多いということで、民間クラブへの移行が考えられたと思う。大阪市も現状、2 時間程度ということで 6 時ぐらいまで活動があり、平日も一生懸命やっておられる教員が一定数いる中で、モデル事業では受け皿となりうる民間事業者がまだない、まだまだそろっていないと考える。
- ・今後、まずは方向性としては、熊本市ではないですけども、部活動の地域連携をまずは進めていく。子どもたちの環境の確保、教員の負担軽減を図っていく。
- ・また、全てのクラブに部活動指導を配置することはできないと思うので、京都市も 2、3 校をまとめていうこともありましてとおり、合同部活動、拠点校ということもある。そういうところも含めて進めていきながら、部活動を少しずつ変えていかなければいけない。改革期間前期の間で進めていければなというふうに考えている。
- ・ただ部活動だけでは、今とあまり変わらない。せっかくみなさんで、多様な体験というすばらしさを有識者会議で教えていただき、また実行している中で生徒も保護者も良さを感じていただいている。
- ・そこは継続しなければいけないし、していくべきだと考えている。
- ・まずは、部活動指導員を配置しながら、多様な体験を進めていきたいと考えております。

(間野座長)

- ・大阪市民に限らず、水と空気と、部活動はタダだとみんな、日本の国民をずっと思い込んできた。
- ・今年度の予算だけでも約 10 億円。大阪市がこれもっと拡充していくとさらに大きくなる。子どものためにどこまで使えるか。社会保障費などそういう比較も含めて、その覚悟、状況をまず大阪市民にしっかり知ってもらう。みんなずっと全部無料と思い続けてきたけれど実はそうではない。
- ・教員のただ働きで成り立ってきて、お金に換算すると、大阪市だけでもうすでに 10 億円相当。
- ・それを、教師の性善説、意欲で賄ってきた。それができた時代はよかったけどもできなくなった。では、どうするか。そろそろ市民が知って考えて決断しなければならないような時代になってきた。
- ・以上で資料の説明はすべて終わりました。事務局に司会をお返しいたします。

3. 閉会